

## 令和元年度 総務産業建設常任委員会 視察研修報告

期 日 令和元年 7 月 23 日（火）～24 日（水）  
視 察 先 三重県玉城町・和歌山県太地町  
出 席 者 委員長 木村康夫、副委員長 山田直行  
委 員 川崎伸泰、梅村登次  
帯同職員 板津町長、福田総務課長  
川合福祉保健課長、亀山議会事務局長  
視察項目 「公共交通」について  
報 告 者 委員長 木村康夫

公共バスがなくなり 5 年経過し、住民の高齢化、核家族化も進み住民の自給努力だけでは、すべての交通弱者が交通手段を得ることが難しくなっています。また、高齢者にとっては自動車免許の返納の大きな障害となっており高齢者は交通事故の被害者であり、加害者にもなりうる状況です。そろそろ、本町でも有効な公共交通の実現が必要になっていると感じています。

今回の視察では、公共交通の先進自治体の交通システムや運営実態を視察研修し、本町での公共交通の実現に向けて選定の多様な判断材料とすることを目的としています。

### 1. ICT デマンド交通＝元気バス

（三重県玉城町 面積 41km<sup>2</sup>、人口 15,498 人）

バスは 9 名乗りが 3 台、会員登録が必要、無料。巡回バスとタクシーの中間を狙っている。完全予約制でバスの運行ルート作成はシステム化されており自動で最適化を実現しており、運行上の無駄をなくしている。バスの停留所の立て札などの目印はないが GPS を使用したバス停



の位置指示により、運転手の負荷なく停留所を数百箇所で開催できている。また、自治会の要望により簡単にバス停の増設ができ、住人の利便性を向上させることができる。運行ルートなし、時刻表なし、停留所表示なしのフレキシブルな交通システムはドア to ドア運行に近いシステムと理解できます。予約は、スマートフォンや公共施設に設置した予約パソコン、電話により可能であるが、現状はほぼ電話予約である。このシステムの導入により、無駄な運行が削減されている。年間運用コストは1,800万円であるが、元気バスを使用した人の後期高齢者医療は1,100万円が削減され、高齢者の事故率の低下も認められるため、実質数百万の赤字レベルと言えます。将来的に増加が確実な交通弱者への公共サービスとしての必要費用としては許容範囲と言えるのではないかと思える。

## 2. 自由乗降バス交通

(和歌山県太地町 面積 6km<sup>2</sup>、人口 3,236 人、高齢化率 40%)



巡回路線バス形態で可能な限り自由乗降による利用者の利便性を向上している。

小さな町であり現状より短い間隔での巡回運行を目標とし、利用実態の分析による運行効率の改善を継続的に実施している。単なる巡回バスであるが、住民のニーズに合わせルートや時刻表を最適化することにより公共交通として機能することが確認できた。利用者は110人/日であり高評価である。自由乗降については許可官庁と忍耐強い交渉が必須である。年間運用コストは2,000万円、過疎債や利用収入400万円万、結果1,600万の赤字であるが住民サービスの必要なコストと位置づけている。

公共交通には自治体の年齢分布地域分布など特性によりいろいろなアプローチがあると思います。

自動運転、AI など技術的な進歩も早く調査分析は継続的に必須であると感じ、研修は実に有意義な結果であったと言えます。



玉城町の視察のようす



太地町の視察のようす

また、太地町では、ご厚意により「鯨の博物館」「こども園」「福祉施設」「道の駅」など訪問見学、鯨食文化を体験することができました。

小さな町ながら精力的に町の発展、福祉向上に努力されている状況は地方自治体

の運営の参考になるのではないかと思います。また、太地町は古来より捕鯨や鯨食などの鯨に関する伝統文化を有し、世界的な反捕鯨運動から伝統文化を守ってきた事実は日本の鯨行政の最前線であると感じました。地域の文化やアイデンティティーを守る姿勢は共感でき応援できます。将来は「鯨の学術研究都市」を目指すと言われた太地町の町長のパワフルさが印象的であり、当町においても地域の独自性の観点から歴史や伝統文化の継承は重要であり参考になると感じました。